令和６年度第２回
島田市デジタル田園都市構想市民会議

令和７年３月21日（金）

会議要録

令和６年度第２回　島田市デジタル田園都市構想市民会議　会議要録

会議の名称	令和６年度第２回　島田市デジタル田園都市構想市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和７年３月21日（金）　10：00～11：50	
開催場所	島田市役所３階　大会議室	
議題	・令和６（2024）年における島田市の人口動向について ・島田市・まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂及び第３次総合計画と島田市デジタル田園都市構想総合戦略の一体化について ・島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて ・島田市における子どもの現況と子育て支援の取組について	
出席者 ※敬称略	市民会議構成員	・島田市自治会連合会　常務理事　渋谷　俊弘 ・一般社団法人島田青年会議所　理事長　山内　優輔 ・株式会社ＦＭ島田　代表取締役社長　中根　弘貴 ・島田市小中学校ＰＴＡ連絡協議会　会長　磯田　辰哉（欠席） ・特定非営利活動法人クロスメディアしまだ　理事長　大石　歩真 ・島田商工会議所　副会頭　鈴木　國近 ・島田市商工会　副会長　池田　豊 ・島田市観光協会　理事　西村　孝明（代理出席　立尾　英司） ・島田市農業経営振興会　会長　鈴木　聡 ・島田樟誠高等学校　校長　杉本　寿久（欠席） ・島田市校長会　会長　山口　泰弘 ・島田掛川信用金庫　地方創生室次長　曽根　満 ・島田榛北地区労働者福祉協議会　会長　樋熊　敦志（欠席） ・島田公共職業安定所　所長　澤野　康之 ・静岡県立大学　経営情報学部１年　鈴木　心菜（欠席） ・静岡県立大学　経営情報イノベーション研究科博士前期課程１年　新間　悠（欠席） ・島田高等学校２年　海瀬　千華 ・島田高等学校２年　櫻井　冠菜 ・島田高等学校２年　大石　凌誠 ・島田高等学校２年　土屋　友香 ・島田高等学校２年　櫻井　紺晴 ・島田高等学校２年　諏訪　匠海 ・島田市長　染谷　絹代
	オブザーバー	・静岡県中部地域局　局長　吉良　光陽
	市関係者	・島田市副市長　牛尾　伸吾 ・島田市教育長　山中　史章 ・島田市市長戦略部長　佐藤　修

	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 課　　長　小野　晶規 課長補佐　大石　一晴 主　　査　清水　靖子
配付資料	・令和６年度第２回　島田市デジタル田園都市構想市民会議　次第 ・令和６年度　島田市デジタル田園都市構想市民会議構成員　名簿 ・令和６年度第２回　島田市デジタル田園都市構想市民会議　席次表 ・【資料１】令和６（2024）年における島田市の人口動向 ・【資料２】転入者・転出者アンケートの調査結果 ・【資料３】島田市・まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂について ・【資料４】将来人口推計 ・【資料５】第３次総合計画と島田市デジタル田園都市構想総合戦略の一体化について ・【資料６】島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（令和元年度改訂版）　概要 ・【資料７】島田市における子どもの現況と子育て支援の取組 ・【参考１】第２次島田市総合計画　後期基本計画［概要版］ ・【参考２】島田市デジタル田園都市構想総合戦略　概要版	

＜開会の挨拶＞

○市長戦略部長　それでは、ただ今から、「令和６年度第２回島田市デジタル田園都市構想市民会議」を開催させていただきます。
皆様、御多用のところ、御出席を賜り、誠にありがとうございます。
本日、司会を務めさせていただきます市長戦略部長の佐藤です。
どうぞよろしくお願いいたします。
それでは、はじめに、島田市長の染谷から御挨拶を申し上げます。

○市長　皆様こんにちは。
市長の染谷でございます。
本日は御多用の中、令和６年度の第２回島田市デジタル田園都市構想市民会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。
開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げたいと思います。
この庁舎については、令和５年10月に開庁し、皆様に御利用いただいているところですが、本日、駐車場が完成いたしまして、新庁舎の全ての工事が完了し、グランドオープンとなりました。
この会議の前には、グランドオープンの記念式典を開催したところであります。
市役所への来庁以外にも、おおるりで開催される行事への利便性が向上することを期待しています。
また、花壇やベンチが置かれているあの場所は、市民の皆様に自由に使っていただけるように、団体への貸出し等もしっかりしてまいりたいと思っております。
このエリアが、人が集い、文化が生まれ、まちが繋がるみんなの広場として、皆様のよりよい交流の場となればと願っております。
さて、この会議は、本日が今年度２回目の開催となります。
前回は８月６日に開催いたしまして、第２期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗に関する評価・検証について、皆様から御意見を頂戴いたしました。
令和５年度をもって終了した第２期総合戦略の計画期間全体における取組に関して、各施策はおおむね成果を上げ、総合戦略の目標に向けで、着実に推進しているとの御評価をいただきました。
本日の会議では、令和６年における島田市の人口動向や島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂などについて、御意見を頂戴したいと思います。
また、会議の後半は、構成員の皆様との自由な意見交換の時間とさせていただきたいと考えております。
限られた時間ではございますが、本日の会議が有意義なものとなりますように、皆様のお力添えをお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。
本日どうぞよろしくお願い申し上げます。

○市長戦略部長　それでは、議事に入る前に、今回、初めて参加をされる構成員の方

がいらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

（自己紹介）
・島田青年会議所　山内　優輔　様
・株式会社　ＦＭ島田　中根　弘貴　様
・島田市商工会　池田　豊　様
・島田市観光協会　立尾　英司　様
・島田市校長会　山口　泰弘　様
・島田掛川信用金庫　曽根　満　様

なお、本日は、島田市小・中学校ＰＴＡ連絡協議会　磯田　達也様、島田樟誠高等学校　杉本　利久　様、島田榛北地区労働者福祉協議会　樋熊　敦志　様、静岡県立大学　新間　悠　様が所用により欠席となっております。
それでは、次第に沿って、議事に入っていきたいと思います。
議事を進めるに当たりましては、デジタル田園都市構想市民会議設置要綱というものがございまして、その規定に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思います。

＜議事(1)＞
○市長　それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。
皆様、どうぞよろしくお願いいたします。
早速、議事に入ります。
本日の議事は、２点ございます。
まずは、次第２の議事(1)の令和６（2024）年における島田市の人口動向について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　資料１、資料２により説明
・令和６（2024）年における島田市の人口動向
・転入者・転出者アンケートの調査結果

○市長　ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。
御意見がないようですので、次に行きたいと思います。

＜議事(2)＞
○市長　続きまして、(2)の島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂及び第３次総合計画と島田市デジタル田園都市構想総合戦略の一体化について、事務局から説明をいたします。

○事務局　資料３、資料４、資料５により説明
・島田市・まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂
・将来人口推計
・第３次総合計画と島田市デジタル田園都市構想総合戦略の一体化

○市長　　ただいまの説明について、御意見、御質問等ありますでしょうか。
よろしければ、後で自由な討議の時間を多くとりたいと思いますので、次に移らせていただきたいと思います。
構成員の皆様から御意見等ないようでございますので、今説明したとおり、人口ビジョンの改訂や第３次総合計画への一体化を進めてまいりたいと思います。

＜意見交換＞
○市長　　それではここから、次第４の意見交換に移ります。
まず、事務局から、島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、島田市における子どもの現況と子育て支援の取組について説明をし、その後、御意見などをいただきたいと思います。
事務局から説明をお願いします。

○事務局　　資料６、資料７により説明
・島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン
・島田市における子どもの現況と子育て支援の取組

○市長　　ただいまの説明について、御意見あるいは御質問、何でも結構です。
自由に御発言いただければと思います。
せっかく来ていただいているので、皆さん１回は、発言していただきたいと思っています。

○Ａ構成員　　資料１の６ページ・７ページにある社会増減の推移の表を見ますと、令和６年は、０歳から９歳が増え、10歳から29歳までが転出が多く、30歳代からまた戻ってきていることが分かります。
自身も２児の父として、島田市の医療費などでかなり恩恵を受けて、非常に子育てしやすいまちだと思っています。
この10歳から29歳までの転出超過についてどうすればいいのか、というのが基本的な戦略になると思います。
首都圏へ知識教養を増やすために転出してしまうのは致し方ないけれど、そこで経験を積んで、いざ子育てするときには住みやすいまちで生活したいという人たちを、引っ張ってこなければいけないということだと思います。
そこで、今、せっかく高校生の方がいるので、将来、自分が何を勉強して、どんな仕事をしたいかといったことを、議長から聞いてもらい、出てきた就職先や仕事先をつくれば、戻ってくる人が増えるのではないかと考えます。
主役は若い方々だと思いますので、ちょっと深掘りしてほしいと思います。

○市長　　ありがとうございます。
主役は若い方々ということで、せっかく島田高校から６人の高校生

に来ていただいていますので、将来の夢、どんな職業に就きたいか、どこで暮らしたいかなど、希望があったら一言ずつ、お話を聞かせていただけますか。

○Ｂ構成員　私は、市役所への就職希望です。
県内の職場や企業は、東京などに比べて、まだ男女差や給料の差があると聞いているので、それがない公務員になろうと思っています。
島田市から流れていってしまう人口を減らす、島田市で働いてもらうためは、その男女差をなくす必要があると思うので、企業の努力が必要だと思います。

○Ｃ構成員　私は大学に行かずに、警察に勤めたいと思っています。
島田市に住むかどうかはまだわかりませんが、もし島田市に住んだり働いたりするとしたら、人口増加も大切だと思いますが、今の治安の良さを維持しなければいけないと思います。
なので、事故をなくしたり、もっと治安をよくしたりといったことに貢献したいと思っています。

○Ｄ構成員　私は、愛知県内の大学を志望しています。
なぜかというと、愛知県は大企業や、勤め先、雇用先がたくさんあり、賃金が高い企業が多いからです。
島田市には、そういった企業は、愛知県や東京都に比べてかなり少ないと感じています。
その差をなくすためには、島田市、静岡県の豊かな自然や環境を使って工場を誘致し、雇用を生んでいく必要があるのではないかと思います。

○Ｅ構成員　私は、経営関係の仕事に就きたいと思っています。
今の日本の世の中は、お金をたくさん持っている方が、子育てや生活を充実させることができます。
女性が妊娠をきっかけに仕事を辞めて、子育てが終わった後に再就職するとなると、とても難しいので、妊娠や子育てをしていても仕事ができるように、託児所や保育園の人員の充実や、職場内に託児所を作っていくことで、働く女性も安心できると思います。

○Ｆ構成員　私は、地方公務員として働きたいと考えています。
今は、どこで働きたいという明確な希望はありません。
島田に住み続けたいと思わせるようなもの、例えば、買い物ができる大きな店や、子育て支援のようなものが、今のままだと少し不足していると感じるので、そのようなところをより向上させていく必要があると考えました。

○Ｇ構成員　私は、地方公務員で市役所もしくは県庁に就職したいと考えています。
地方公務員になりたい主な理由は、地域に貢献したいという強い思

いがあるからです
同級生を見てみると、都会への憧れがあるので、大学へ進学するときに都会に行くのも必然的と言えると思います。
都会に行ったときに、やっぱり島田市は良かったと、地元を誇れるような何かがあったらいいと思います。

○市長　ありがとうございました。
今、島田高校の６人の方にお話しいただきました。
皆さんはまだ２年生です。
将来に対して、しっかりとした目標や、なりたい自分を持っているっていうのは、すごいことだと思いました。
また、今いただいた６つの御意見は、大変貴重な御意見だと思いました。

○Ａ構成員　非常に貴重な御意見でした。
もうちょっと冒険する、大きな話してくれる子がいないかなという期待もありましたが、地元のことを誇ってくれているという、ありがたい話だと思います。
大人は、割と自分の経験則でしか物事を判断できないし、今の時代を担う子どもたちの意見も全く分からないので、市内の高校生などから意見聴取をすれば、これから実際に何をやらなければならないのか、細かいところが出てくるのではないかと思い、意見しました。

○市長　貴重な御意見をありがとうございます。
まさに、20年後の主役はこちらにいる方々です。
市としては、こういった方々の意見を尊重しながら行政を進めていくため、高校生のアンケート調査や、今日のこの市民会議もそうですが、高校生の皆さんや大学生の皆さんに、いろいろなところで審議会や委員会に関わっていただいています。
また、例えば、都市基盤部がやるような長寿命化の点検など、行政の業務にも島田工業高校の生徒さんたちに関わっていただいています。
このように、何らかの形で島田市に根っこを持った子どもたちになっていただきたい、また、いつか、どこに住むかということを決めるときに、ふるさと島田をしっかり思い出していただけるような、その根っこを作っておきたいと考えています。
これは、高校生のときにどんな関わりを持った経験があるかということにも繋がると思い、市としては、今、そういうところに力を入れてやっているところです。

○Ｈ構成員　高校生の皆さん、ありがとうございます。
資料４の将来人口推計をみると、ケース１の６万3,174人の人口になってしまう場合は、年平均で850人ほど減っていくと推計されていると思います。
資料１では、2024年は960人ほどの減でしたので、目標の８万人と

いうことになると、年平均で370人ぐらいの減となり、相当頑張らないと届かない数字であると思っています。
そのような状況を踏まえて、私たちの取組とリンクしながらお話します。
まず、来年度の取組は、大きく２つの柱があります。
１つは、観光商品・旅行商品をしっかり作って、雇用創出や地域への経済波及効果を高めていきたいと思っています。
また、産業の創出にも、微力ながら繋がっていくのではないかと考えています。
もう１つは、プロの観光ガイドの組織を、何とか形にしていきたいと考えています。
参考２の資料の「仕事を創る」というところに、観光の分野も入っていますので、使命感を持ってやっていきたいと考えています。
我々もイベントに忙殺される業務もあるので、市の観光課と協議しながら、イベントのあり方や、やるべきことを具体化し、優先順位を決めて、スリム化とビルドアップをしていきたいと考えています。
人口に関連した話として、生産年齢人口は15歳以上65歳未満ということですが、今は、65歳以上でも元気な方が多く、70歳ぐらいまでで考えると、非常に元気な方がたくさんいらっしゃいます。
その辺りの年齢層も含めて、ガイドなど、積極的に観光に携わっていただいたらどうかと思っています。
また、先ほどお話もありましたが、お子さんが小さいとなかなか働きにくいという主婦の方にも、観光の分野は親和性が高いのではないかと思います。
ですので、生産年齢人口の質を高める、高齢者も含めて活躍できるような場をつくるといったことを、観光の分野でバックアップできればと考えています。

○市長　ありがとうございました。
産業の創出、雇用というところも視野に入れて、お話をいただきました。

○Ｉ構成員　今のお話もすごく面白いなと思いました。
生産年齢人口をどう増やしていくかということが、人口減少になぜ対応しなければならないのかというところの、一番重要な核なのではないかと思っているので、その取組が必要だと思います。
島田市は、市長が女性というところもあるので、女性がどのように働いていくのか、活躍するのかというところが、すごく重要なポイントになっていくのではないかと感じています。
例えば、私達の法人も、今は私が理事長をしていますが、次年度からは、女性の理事長に変更していこうと考えています。
このように、女性が働きやすい、女性が社会にもっと出てきやすくなるような取組を、市全体の計画の中で促進をさせていければならないとすごく感じました。
また、出生率に影響を及ぼす要因については、例えば、経済的理由

や支援体制の構築など、いろいろなものがあると思います。
この間、アメリカの経済アナリストの方のお話で、アメリカの出生率は下がっていない、アフリカは当然、アジアも出生数が多い中、日本や韓国がとても下がってきていて、何が違うのかというと、ムードが違うという話がありました。
日本や韓国では、そろそろ結婚しないのかというようなことを言うと、非常にバッシングを受けやすいですが、会社で上司が、実家で親がそのようなことを言える社会の方が結婚するそうで、そのような社会的なムードや発言がないことが、大きな要因ではないかということです。
なかなか行政として方策が難しく、もう少し緩やかな形が必要だと思いますが、結婚している方のいい姿をもっと見せていく、出会いの場も、今の若い人たちはアプリなどが中心なのかもしれませんが、結婚式を含めて見せていくなど、結婚したらいいよね、結婚したら楽しいよねといったような、まち全体のムードづくりが、実は大事だということを聞いたので、ヒントにしてもらえればと思っています。

○市長　貴重な御意見をありがとうございます。
様々な施策で、生産年齢人口をどう増やすかということをやっていますが、基礎自治体の施策だけではかないません。
昔は結婚をしないといろいろ言われましたが、今は特に何も言われません。
社会全体のムード、結婚するということに対しての後押しが足りなくなっているのかもしれませんね。

○Ｃ構成員　静岡県や島田市の魅力の１つとして、お茶があると思います。
でも、年々、お茶農家の数が、高齢化や経営難で減ってしまっています。
お茶農家の数を増やすためや、今いる農家のための支援や補助を考えてほしいと思います。

○市長　ありがとうございます。
島田市の主な農業生産といえばお茶ですから、お茶をやっている地域は皆、お茶を何とか盛り上げたいと思っていますし、私も同じ思いです。
まず、需要がなくなってきたということが、要因の一つだと思います。
儲かる農業だったら、若い人がどんどん入ってきてくれます。
でも、今は、茶葉の価格が低迷し、日本国内では需要が細ってしまっています。
海外に向けては、まだまだ需要がありますが、オーガニックでないとなかなか売れません。
今、化学肥料や農薬をたくさん使っているものをオーガニックに変えるためには、３年から５年ぐらいかかるので、その間の所得補償や、残留農薬検査やＪＡＳ認証費用の補助など、市も様々な支援を

しています。
それから、１人ひとりでは小さい面積の農地を、地区で何十ヘクタールとまとめて、法人格を持つ方や、次の若い担い手の方々に担っていただいて、茶業を振興していこうということに、今取り組んでいます。

○Ａ構成員　学生の方から話を振ってもらって、本当にありがたく思います。
皆さんが、お茶を島田市の基幹産業・産品として認識してくれていること、また、全国でも基幹産品を持っているということ自体が非常に優れていることで、これを核にうまく使えば、何かできるのではないかということは、農業界でも考えています。
ただ、高齢化や、儲からないからなかなか次の担い手が来ないというところは課題です。
２月に地紅茶フェスティバルをおおるりで開催しましたが、普通のお茶のイベントと紅茶のイベントでは、客層が違います。
普通のお茶のイベントは、開催しても少し閑散としたイベントになってしまい、お客さんも60歳以上の方が多くなります。
一方、同じ葉っぱで紅茶も作ることができるということで、紅茶を作っている方々やお茶屋さんで紅茶のイベントを開催したところ、客層が全く異なり、女性の方が８割ぐらいになりました。
当日１日で集客人数が2,000人、有料でお茶を飲んだ方は半数以上でした。
このように、今までどおりだけでは駄目で、新しいことをやらないといけないということで、紅茶についても取り組んでいます。
紅茶は作るのに２日かかります。
１日目で摘採して、日光に当て、萎れさせて、発酵の促進のスイッチを入れて、一晩寝かせて、次の日に機械で水分を切って揉み上げていくことで出来上がります。
こうしたことへの知的探求や、経験を積みたいという方は、国内外問わずあると思います。
先ほど、プロの観光ガイドや元気な高齢者に観光に携わってもらうという話がありましたが、元気な高齢者の中にはお茶を揉むプロで、特に仕事をしていない方がいるので、そういうところでコラボレーションしたらどうかと思います。
島田市に泊まっていただいて、摘採から２日間かけて紅茶を作る体験をして、作った３kgぐらいの紅茶を住んでいるところに持って帰って、知り合いに飲んでもらえれば、金額的なパイは少ないかと思いますが、波及的効果を含めて考えると非常に面白いのではないかと思いました。
今後もいろいろ相談させてもらったり、高校生にも協力してもらったりして、地域の農業の発展、茶業の発展に努めたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○市長　ありがとうございました。
島田には挑戦する人たちがたくさんいます。
私は、これはすごいことだと思っています。

どうすれば売れるお茶を作れるのかということに大変熱心で、挑戦する方々がいるというところに、私は、お茶の将来の希望を見出しています。
そこに、市がどんなことができるかということを、しっかり繋げていきたいと思っているところです。

○Ｊ構成員　今日は、まち・ひと・しごとの３つの中で、主に人口、人の分野にお話が集中していたのですが、私の立場ですと、社会インフラの充実をいつもお願いしています。
先般も議員の皆さんとの懇談のときにも言ったのですが、行政のする仕事は、我々と比べるとスピード感がありません。
限られた予算で、あらゆるものをできるわけではありませんが、１つの事業をやるにしても、ここは集中的にもっとやって成果を出すというような、メリハリを効かせて進めていくことをお願いします。
それから、こちらからも正式にお願いしているところですが、浜岡３町のＰＡＺと我々のＵＰＺの電力料金についてです。
先般の福島の事故では、飯舘村も大熊町も被害は全く同じであることを考えると、市の施策ではありませんが、ＵＰＺの地域にも廉価な電力が供給されるような施策を講じるよう、国に対して働きかけをしてほしいということです。
農業でも何でもそうでだと思いますが、特に製造業において、電力料金の高騰というのは、今、大変課題になっていますので、ぜひ仲間になって、国への訴えをしてほしいと思います。

○市長　この件については、国に言うことが適切かどうかわかりませんが、既に中部電力には申し入れをしてあります。
地元の振興、それから茶業の振興という中で、大井川流域は良質な伏流水がたくさんとれます。
そこに安定した電気があれば、本当に企業誘致の強い場所になります。
そういう意味でも、ＵＰＺ圏内の電力料金を地元の市と同じ金額にしてほしいということは、国にも、どこに言えばいいのかということも併せて話をしてみます。
ありがとうございます。

○Ｋ構成員　いろいろお話を聞いて勉強になりました。
私たちはラジオ局で、パーソナリティやディレクターという役割があります。
もちろん会社ですので、社員もいます。
その９割が、実は女性で構成をされています。
特に、賃金について、アップしなければと検討しているのですが、経営考えると、給料を上げるということがなかなかできない状況です。
今、検討しているのは、会社に１日勤めると、ランチにお金が結構かかるので、その補助をしていこうかと考えています。

手取りを上げるということを、今、政治でも結構大きく取り上げられていますが、社員、パーソナリティ、ディレクターの皆に補助をできればと考えています。
それから、資料６の「しごと」について、やはり、いい仕事があり、経済的に安定しているということが、最も重要だと思っています。
仕事があって、仕事ができて、経済的に安定していると、結婚、子育てに繋がっていくということですので、企業誘致や起業の支援も、ぜひお願いしたいと思いました。

○Ｌ構成員　今日、島田高校の生徒さんが来ていますが、私も島田高校の出身です。
私が17歳の頃には、皆さんのような考え方ができたかと思うと、とてもそんなことはできなかったと思います。
当時は、私は野球をしていたので、野球とそれから異性のことしか考えてなかったのではないかと思っています。
今、島田市だけではなく日本全国的に、人口が減り、それから所得が上がらないなどという状況になっていますが、これは、国の政策が全く間違っていたということです。
この40年間、もっと言えば戦後から、国の政策が間違っていたということになるわけですが、その中で生きてきた我々の考えは、もうはっきり言って役に立たないと思っています。
これから、この日本それから島田市のこと良くできるとしたら、皆さんのような高校生の考えや熱い気持ちで、それがこれからのこの地域を盛り立てていく原動力になると思います。
ですので、私が非常に大事にしていかなければならないと思うのは、これまでの政策が間違っていたということを前提に、皆さんがどんなことを考えているのか、どんな疑問を持っているのかということです。
そうしたことが、これからの市や国の政策を、生き生きとしたものにするためのヒントになるのではないかと思います。
そういうことで、今日は時間がないと思いますので、また今度、皆さんの今の世の中に対する疑問などを聞かせてもらえれば、嬉しいと思います。

○M構成員　教育現場の立場から意見をしたいと思います。
先ほど、人口ビジョンのお話を聞いて、子どもたちが島田の学校で学びたい、保護者が島田の学校で学ばせたいと思うような魅力ある学校づくりしていきたい、していかなければならないと改めて決意をしたところです。
義務教育を充実させていきたいと思っており、島田市は夢育・地育を大事にして教育活動を推進し、子ども主体の学びで子どもたちの力を引き出すことに力を入れてきています。
先ほど、高校生の皆さんの話を聞いて、夢を持ち、地元を愛する気持ちが、義務教育段階から育ってきたということを感じ、すごく嬉しく思いました。

総合戦略にあるように、より一層、豊かな心と夢や目標を持った子どもを育てるために、教育内容や教育活動を工夫していくことはもちろん、それを支えるための教育現場の学習環境の整備について、行政からも後押ししてほしいと思います。
施設設備や、多様な子どもたちの力を引き出していくための支援員などといった人員、教育支援センターなどの多様な学びを支えるものを充実させることで、子どもたちが島田市の学校で学びたい、また、保護者の方々が義務教育段階の子どもたちを育てるに当たって、島田市の学校で育てたいと思うように繋がっていくことを、期待しています。
また、今日の報告の中にあった、外国人が島田市にたくさん転入超過で入ってきているというお話ですが、今後の見通しと、単身であるいは家族でといった、外国人の方々の入り方は分かりますか。
もし、家族で来られていて、就学に関わる子どもたちがたくさん入っている、これからもその状況が続くということであれば、プレ学校など、外国人の児童・生徒を支える場も必要になってくるのではないかと感じました。

○事務局　個人が分かるようなデータ集計をすることができないため、分析できていません。

○市長　傾向としては、10年で倍以上に増えています。
これからも増えていくでしょう。
それから、以前は中国やフィリピン、南米が多かったのですが、今はインドネシアやミャンマー、ベトナムの方々が非常に増えています。
企業がまとめて雇用しているところもたくさんあって、個人というよりは、就職先で雇用を入れているというのが私の印象です。
また、金谷には外国人のための日本語を学ぶ学校もございますので、そこに通っている学生さんもいるのではないかと思います。

○Ｂ構成員　今の外国人のお話で思い出したのですが、金谷には日本語学校があるので、外国人が結構多く住んでいます。
全員ではないと思いますが、外国人の方々が深夜に騒いだり、自転車で横一列に走ったりなど、マナーが悪いことで、地元の人が迷惑しているところをよく見るし、私も嫌だなと思ってしまうことがあります。
外国人の方々が島田市に住んでいることは、いいことだと思いますが、それによって地元の人が、島田市は治安が悪いと捉えて、嫌になってしまうのがもったいないと思います。
市としてどうすれば良いのかは分かりませんが、改善していく必要があると思いました。

○市長　ありがとうございます。
外国人は、10年で倍以上に増えたと言いましたが、今は約2,000人で、比率は２％です。

一番多く住んでいるのは初倉で５％です。
初倉で外国人の特別な問題行動は起こっていませんが、島田市には、簡単な日本語で、ゴミの出し方や自治会の付合いなどを教える学校が、旧市内に１つ、初倉に１つあります。
そして、国際交流協会というところがあり、以前は、例えば、リッチモンドと島田市といった、外国との付合いを一生懸命やっていました。
今は、それだけではなく、島田市に住んでいる外国人の方々の生活のお世話をしたり、住民の方たちとの交流の場をつくったりすることで、安心して住んでもらう、裏を返せば、住民の方たちにも安心して受け入れてもらえる環境をつくることを、一生懸命やっているところです。
まだまだ御意見が尽きないと思いますが、ほぼ予定の時間となりました。
最後に、オブザーバーとして御参加いただいている中部地域局の吉良局長より、本日の会議について御意見をいただきたいと思います。
よろしくお願いします。

○中部地域局長　県の取組も含めて、少しお話ししたいと思います。
資料５で、総合戦略と総合計画を一体化するという説明がありました。
この地方創生の総合戦略は、子育てをはじめ、福祉、仕事と産業、魅力あるまちづくりでは、教育、危機管理と、非常に施策の幅が広く、総合計画とほぼ重複しており、その結果、ＫＰＩのずれが生じますが、これは評価のずれにも繋がると思います。
市民の皆様に、市政の成果として評価の結果を伝える上でも、一体化するメリットはあると思います。
また、先ほど、行政のスピード感というお話がありましたが、総合計画と総合戦略の評価を別々に行うと、評価に係る職員のエネルギーがかなりかかります。
一体化することにより、そのエネルギーを市政の推進に繋げるというメリットもあると思いますので、一体化するメリットは非常にあるのではないかと思います。
県も同じ状況にあったことから一体化しましたので、御紹介します。
本日の高校生の皆様の御発言は、県の人口減少対策にも非常に繋がる部分があるので、非常に興味深くお聞かせいただきました。
ありがとうございます。

○市長　ありがとうございました。
今日は、高校生の皆様の一言ずつの発言から、話が大きく広がり、短い時間ではありましたが、大変有意義な御意見を拝聴できたと思っています。
これを庁内で情報共有して、今後の事業に生かしていきたいと思っています。

しっかりお約束させていただきたいと思います。
市民の皆様の御協力もしっかり仰いでいかなければいけないことはたくさんありますので、やはり、皆様に知っていただくということがとても大事だと思っています。
さて、本日の会議は、こうしてここにおられる皆様方の御協力によりまして、無事、議事について御意見をいただき、終了するところまでやってまいりました。
それでは、これから先の進行を事務局にお戻ししたいと思います。
事務局お願いします。

○市長戦略部長　皆様、ありがとうございました。
活発な御意見を頂戴いたしました。
また、今後の施策づくりの参考にさせていただきたいと思います。
最後に、次第５のその他につきまして、事務局から説明をいたします。

○事務局　令和７年度の島田市デジタル田園都市構想市民会議について説明

○市長戦略部長　今、連絡があったとおりでございます。
よろしくお願いいたします。
それでは、少し時間が超過してしまいまして、大変申し訳ございません。
以上をもちまして、「令和６年度第２回　島田市デジタル田園都市構想市民会議」を閉会とさせていただきます。
本日は、御多用の中、御出席賜りましてありがとうございました。
お気をつけてお帰りいただければと思います。
どうもありがとうございました。

～終了（11：50）